

開催日時	2006年6月3日（土）10:00～12:00
場 所	大阪ビジネスパーク 円形ホール
参加者数	委員 13名 河川管理者 21名

## 1. 決定事項

- 平成17年度事業の進捗点検への意見書案の作成担当が次のように決定した。  
計画-1-1：千代延委員 環境-2-15～環境-3-9：高田委員 環境-17-11～17-19：村上興正委員  
治水-1-1-4～治水-7-4：池淵委員 利用-2-1：澤井委員
- 各作成担当者は6月10日（土）までに意見書案を庶務に提出し、部会長がとりまとめを行う。とりまとめ後、再度、委員に意見照会・再修正をし、最終案とする。

## 2. 検討の概要

### ① 河川管理者からの説明と質疑応答

河川管理者より、資料2-1「河川整備計画進捗状況報告項目」を用いて説明がなされた後、質疑応答がなされた。主な内容は以下の通り（例示）。

#### ○ 河川環境事業（横断方向の河川形状の修復）について

- 資料2-1 P1 航空写真の桑津橋付近の運動場付近に低水護岸ができています。軍行橋付近にも運動場があるが、「横断方向の形状の修復」でこれらを取り去るのか。また P5 航空写真左側の堰では取水しているのか。  
←横断方向修復の試験施工地点は7km地点で自然に堆積している箇所だ。グラウンド等を削っていくということではない。堰では上水と農水の取水が行われている（河川管理者）。  
←築堤以前の状況はどうだったのか。昭和20年頃の航空写真があれば猪名川の本質を考える上で便利だ。  
←昭和22年の航空写真がある（河川管理者）。
- 資料2-1 P5 のワンドは「ワンド」と言えるのか。「ワンド」と「たまり」の区別があるのではないかと。  
←下河原のワンドは出来が悪い。ワンドの形状をきちん整備した上でモニタリングをした方がよい。「湿地環境の回復」も同時に行った方がよいだろう。「ワンドとは、本川とつながりを持ったたまり」と広く捉えておいた方がよい。
- 資料2-1 P2 で河川環境の調査指標としてあげられている鳥類や植物の種類をもう少し検討し直して欲しい。

#### ○ 水質管理協議会 について

- 猪名川水質管理協議会の特徴を教えてください。また、化学物質をどうしていくつもりなのか。「水質シミュレーションモデル」も検討していくとのことだが、こういった負荷の削減を目指しているのか。  
←猪名川は上流でのニュータウンの建設が進んでいるが、汚水・下水は下水管で処理するため、上流から川に入ってくる分は少ないと思っている。ただ、都市や農地からの面源負荷が川に流れ込んでいると考えている。化学物質については、現時点ではBODによる評価がメインだ。油の流出事故が起きているので、こういった事故に対する速やかな対応も協議会での課題になる。水質シミュレーションについては、まだまだこれからだ。住民連携も含めて進めていきたい（河川管理者）。

### ② 平成17年度事業の進捗点検についての意見書に関する意見交換

資料3-1「河川整備計画基礎案整備シートに係る平成17年度事業の進捗点検についての意見書（案）」を用いて、意見交換がなされた。主な意見は以下の通り（例示）。

#### ○ 計画-1-1 河川レンジャー

- 近畿地方整備局でガイドラインを作り、それ以上は各河川事務所に任ずという方針なのか。それとも、すべて各河川事務所任せなのか。  
←どの地域も全て同じ制度になるということにはならないだろうが、基本的な部分は各事務所で同じ内容になると思う。現状は、かなり前段階の状態なので、様子を見ながらやっていきたい。身分・手当等については、活動内容にも関連してくるので、一致させておく必要はあると思っている（河川管理者）。
- 拠点施設は国の施設でなくてもよいのではないかと。地域公民館等を借りるのも方法だろう。

#### ○ 環境-2-15～環境-3-9 河川環境事業（横断方向の河川形状の修復）

- 河床が緑に覆われている状態が自然なのか。維持のための掘削を頻繁に繰り返してもよいのではないかと。堆

積土の切り下げをこまめにやってもよい。ただ、コストもかかるし手間もかかる。実現可能か。

←掘削のための予算確保は厳しい状況だ。何らかの形で対応はしていきたい（河川管理者）。

←やみくもに掘削するのは反対だ。自然再生をしていく中でどう掘削していくのか、モニタリングをしながら慎重に進めてほしい。北河原地区の結果を踏まえて次を考えた方がよい。

- ・現在の取り組みだけでは限定的だ。いろいろな取り組みがある。ワンドや河床掘削が河川環境の復元に有効なのかどうかも検討していくべきだろう。そのためにも実施に向けた「仮説検証型の実験・試行」が必要だ。
- ・高水敷の切り下げは、河道に余裕のあるところだけではなく、余裕がないところをやって欲しい。疎通能力も上がり、冠水頻度もあがる。将来的に検討して欲しい。
- ・平常時の土砂管理として、ブルドーザーで攪乱するというのはどうか。特に、生態系への影響はどうか。  
←粒度分布の観点からも攪乱した方がよいという意見もある。意見を頂きながら進めたい（河川管理者）。
- ・掘削する場合は疎通能力の向上がセットになっていないといけない。7 km 地点よりも分派点の猪名川側で検討すべきだ。樹木が多く、川の流れも藻川に偏っている。優先順位としてはこちらからではないかと思う。

#### ○ 環境-17-11～環境 17-19 河川環境事業（生育環境の保全・再生）

- ・水位に応じて自然に冠水範囲が変わるので、階段状の切り下げよりも緩傾斜化の方がよい。
- ・ハリエンジュは地盤を変化させる。治水の阻害になるものを優先すべきだ。アレチウリやハリエンジュ対策はすでに行っているので、「実施」にあたるのではないか。  
←調査検討と実施の仕分けとしては、一定の計画に基づいておこなうのが「実施」としている。今回は試験的な位置づけなので「調査検討」となっている（河川管理者）。

#### ○ 治水-1-1-4 水害に強い地域づくり

- ・河川管理者が危険水位を示すべきだ。合意で決めるべき事ではなく、河川管理者の先決事項だ。内水排水ポンプの運転調整は「破堤後の調整運転」では意味がない。  
←確かに破堤するかしないかが一番大事だが、現状ではそこまでの合意は出来ていない（河川管理者）。

#### ○ 治水-3-5 堤防補強（猪名川）

- ・現状の堤防は越水すると破堤する。壊滅的な被害を防ぐための越水対策は今後も言い続けていくべきだ。

#### ○ 治水-7-4 川西池田地区の築堤を実施

- ・なぜ川西池田地区が最後の無堤地区として残されたのか。下流域を守るための溢水地区なのか。上流域で築堤すると洪水時の下流域の負担が増える。下流域の整備が終わってから築堤するのが順序だろう。  
←下流域から順に治水整備をしてきたことに加えて、用地取得が非常に難航したためだ。意図的に残したということではない。この地区を築堤しても、計画規模であれば、下流域は問題ない。下流域への負荷についても議論をして、一連区間として築堤しなければならないという結論になった（河川管理者）。

#### ○ 利用-2-1 河川保全利用委員会

- ・グラウンド利用は街でもできるが、広い河川敷のグラウンドを利用しているという喜びもある。河川利用を縮小していくという方向性には同感だが、川からグラウンドを追い出さなくてもよいのではないか。  
←都市にグラウンドがないからやむを得ず河川敷を使っている。自由使用の実態も特定集団による独占状態になっており、誰もが自由に使える状態ではない。占用許可の見直しについても意見を述べていくべきだ。  
←安易に利用のための拡大をしてきた。委員会はこの点に問題提起をした。河川管理者も委員会の提言を受け止めて方向転換をした。意見書は基本的な委員会の考え方を押さえたトーンにして欲しい。  
←盛土をして作ったグラウンドや水辺ぎりぎりのグラウンドは駄目だ。河側から環境に戻していくべきだ。淀川では許可更新期限を短縮する等の試みを行っている。
- ・グラウンド等の河川敷施設の災害復旧にかなりの投資をしている。  
←占有許可施設の災害復旧は、占有している自治体が持つべきだ。

#### ○ 余野川ダムについて

- ・余野川ダムに対する意見があれば、提出して頂きたい（部会長）。

以上

※結果報告は、委員の皆様に必要な決定事項等の会議結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。